



9月20日～26日は

# 動物愛護週間です



## 令和5年のテーマ

### 子どもも大人も一緒に考えよう、 私たちと動物

子どものころから動物との付き合い方を学ぶことは、動物に対する考え方や彼らが担う未来の社会づくりにつながると考えられます。動物愛護週間には、人と動物について、子どもと大人と一緒に考えてみましょう。

## ペットの飼い主の皆さんへ

動物は、私たちの生活をさまざまなかたちで豊かにしてくれる、人間にとってかけがえのない存在です。その一方で、マナーの悪い飼い主が問題になっており、鳴き声やふん尿など、近隣への迷惑になる事例や動物による事故などが依然発生しています。

動物愛護管理法では、動物の飼い主は、その動物が命を終えるまで、適切に飼養する〔終生飼養〕の責任を義務づけています。第7条には、飼い主の責務として以下の6つが明記されています。

- |                 |              |
|-----------------|--------------|
| 1 健康と安全の保持と迷惑防止 | 4 終生飼養       |
| 2 病気の知識と予防      | 5 繁殖制限       |
| 3 逸走防止          | 6 身元表示（所有明示） |

## 飼い主のいない猫に 無責任にえさをあげている方へ

無責任にえさを与える行為は本当に猫にとって幸せなことでしょうか。えさを与えることで子猫が生まれ、管理されていない猫がさらに増えていくと、地域の嫌われ者になるだけでなく、事故や病気で命を落としてしまう場合もあります。不幸な命を生み出さないことが、私たちに求められています。

## 地域猫活動

ふん尿、鳴き声、いたずら、子猫を生んでしまったなど、飼い主のいない猫で困っている方からのお問い合わせが多く寄せられています。

市では、対象地域にお住まいの皆さんのご理解・ご協力のもと、地域で猫を管理し、不妊去勢手術を行い、飼い主のいない猫による被害を減らす地域猫活動を推進しています。

世話をすると地域住民がお互いに協力することで、飼い主のいない猫を減らし、地域の環境問題の解決を図ります。

## 猫のふん尿被害でお困りの方へ

市では、敷地内に侵入する猫による被害を軽減するため、猫が嫌がる超音波を発生させて追い払う機械（超音波発生装置）を試用として貸し出しています。また、忌避剤も無料で配付していますので、環境衛生課へお問い合わせください。

## ／ 備えよう！ ペットの災害対策

災害は突然起こります。いざというとき、ペットを守れるのは飼い主だけです。まず、飼い主が無事であること、そして避難する場合にはペットと一緒に避難場所に避難すること（同行避難）が基本です。共に安全に避難でき、周りの人に迷惑をかけず、安心して過ごすためには、日頃からの心構えと備えが必要です。

### 人と動物の安全確保と同行避難

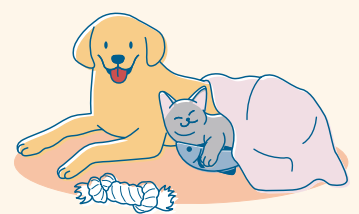
災害が発生したら、まず自分の身の安全を確保し、落ち着いてから自分とペットの安全を守りましょう。情報を集めて避難場所への避難が必要か判断し、小型犬や猫はケージやキャリーバッグに入れましょう。

## ペットのための備蓄品

- 常備薬
- 5日以上のフードと水、食器
- ケージ、リード、ハーネスなどの係留用品
- 飼い主の連絡先やペットの情報を記録したもの
- ペットシート、トイレ用品



洗濯ネット（猫の逃げ出し防止など）、好きなおもちゃ、においのついたタオル、ブラシ、ガムテープ、新聞紙、ブランケット（ペットの体を包める大きさ）などがあると便利です



## 災害後にペットと過ごす注意点

### ● 避難所で生活する

避難所では人とペットは別の場所で生活し、ペットの世話は飼い主が自ら行うことが原則です。いつも以上に周りの人に配慮し、飼育スペースや排泄物の処理など決められたルールを必ず守りましょう。

### ● 自宅で生活する

自宅が安全なら、住み慣れた自宅にいる方がペットも安心です。ただし、救援物資と情報は避難所に集まるので、必要に応じて取りに行くようにしましょう。人は無理でもペットが自宅で生活できる状況なら、避難所から世話に通う方法もあります。二次災害の危険があるときは、同行避難をしましょう。

自宅が危険な場合や避難指示が出ている場合は、避難場所へペットと同行避難します。避難場所での対応は、災害の規模や収容施設の大きさ、被災者の数などによりさまざまです。安全な状態であれば、避難所に行かずに自宅にとどまるという選択肢もあります。

### ● 車の中で生活する

車内では周りに気を遣わず過ごせますが、エコノミークラス症候群にならないよう定期的に車外に出て動き、水分をこまめにとりましょう。また、人もペットも熱中症の危険があるため、温度や湿度を確認するなど注意が必要です。  
※避難所に駐車スペースはありません

### ● ペットの健康管理

避難所には人だけでなく、多くの動物も集まります。非常時は衛生状態や栄養状態が悪くなり、ストレスで免疫力が低下することもあります。感染症の発生を防止するため、日頃から、ノミやダニなどの寄生虫の駆除や発生予防、感染症予防は必ずしておきましょう。